



瓊浦高等学校
学校通信
第 85 号

令和元年9月28日発行
電話 095-826-1261
FAX 095-820-5245

瓊浦窓の 「大きな陰の力」

校長 宮崎 芳之

今年の体育祭は台風の影響で順延となり、昨年に引き続き松山での開催は叶いませんでした。科学技術がどんなに進歩しても、天候だけはどうにもならないようです。

プログラムを短縮しての本校グラウンドでの実施でしたが、こういう制約の中でも不平・不満も言わず、仲間とともに持てる力を発揮し楽しむことができるということは、今の瓊浦生のすばらしさだと思います。グラウンド一杯に繰り広げられた生徒諸君の若さ溢れる潑刺とした姿、全力で取り組む姿は、見る人に興奮と感動を与えてくれました。

さて、我々は「新たなる挑戦～100周年に向かって～」という合い言葉のもと、一人ひとりがしっかりとした足取りで、互いの目標に向かって着実に一步一步進んでいます。それを象徴するのがこのたびの、バドミントン男子の全国私立高校選抜大会（団体）での日本一であり、全日本ジュニア選手権ダブルスでの町田・永淵組の日本一、そしてインターハイでのハンドボール男子の第3位、だと思えます。

私も、バドミントン男子とハンドボール男子のインターハイの応援に駆けつけましたが、どの試合も白熱した試合で、窮地に立たされる場面が幾度となくあったのですが、最後まで決して諦めることなく、果敢に向かっていく姿には本当に感動させられました。瓊浦の生徒は「すごい」と心からそう思いました。この学校で一生懸命努力をすれば、全国の大舞台で十分活躍できるのだということを証明してくれたと思います。

ただ、ここで忘れてはいけないことがあります。それは、試合に出たくても出られなかった仲間の、大きな陰の力の存在です。どの部活動も同じ事が言えると思うのですが、2年生まで歯を食いしばり頑張ってきて、3年生でやっとレギュラーになれると夢を膨らませていたところ、自分より強い後輩が現れてその夢が絶たれる。これは人間簡単に割り切れるものではありません。私も長年の教員生活の中で、高総体を目前にしてレギュラーになれず淋しくやめていく生徒の姿を幾度となく見てきました。

しかし本校の生徒は違う。そういう悔しくも辛い思いを乗り越え、仲間が頑張っているチームが勝つことを自分の喜びに変え、しかも心からそれを支えてやっている。はち切れんばかりのあの大きな声で応援する姿を見ればそれがわかります。インターハイで勝ち進むレ

ギュラーのユニホームを毎日夜の12時過ぎまで洗濯して次の試合に備えたり、試合中の飲み物を準備してくれる仲間の気持ちが伝わってきます。

団体戦で勝つと言うことはそういうことなのだ改めて感心させられました。そして、これこそが瓊浦ファミリーの強さだと確信しました。

私は思うのです。部活で3年間を過ごす真の目的はレギュラーとなって「試合の勝利者になる」ことではなく「人生の勝利者になる」ことだと。たとえレギュラーになれなくても、高校三年間部活で練習した結果、素晴らしい人生を歩むための基礎・基本になる「生きる力」を得ることができるのです。

家に例えれば、基礎はコンクリートの土台、基本は柱だと考えたらよいかと思います。このどちらかがしっかりしていないと風が吹けば家はすぐに壊れてしまいます。

3年間、苦しい思いをして、練習してきたことは、確実に心と体を鍛えています。絶対に無駄にはなりません。大切なことは目標を持って挑戦することなのです。

3年生はこれからが正念場。特に就職する者にとっては今が試験のまっただ中。先生方と二人三脚で頑張ってもらいたいですね。進学する者は、あせらず、じっくりと力をつけてほしいと思います。2年生は学校の中核を担うこととなります。生徒会長も2年生にバトンタッチされました。1年生は入学後の自己点検の時期を迎えます。ここでくじけたら回復させるのにそうとうなエネルギーを費やすこととなります。苦しいからと言って、安易な方向へと流れることがないようにお願いします。

完全燃焼の高校生活へ取り組む有意義な2学期を期待したいと思います。保護者の皆様もご支援よろしくお願いします。



快拳!! バドミントン男子 ダブルス日本一



9月20日～9月23日に新潟で行われたJOCジュニアオリンピックカップにおいて、町田脩太・永淵雄大組（ともに普2D）が見事優勝を果たしました。今大会は1,2年生のうち、今年度IHで上位進出者、各県1位、U-19代表が出場する、IH、選抜大会に並ぶ3大会の1つです。また、この大会で優勝すると、U-19日本代表に選ばれる可能性もある、重要な大会でもあります。今回は第1シードというプレッシャーの中、初戦から競った戦いとなりましたが、1試合1試合を粘り強く勝ち抜き、優勝を勝ち取りました。今後選抜やIHでも活躍が期待されるバドミントン部に、是非ご注目を！



校長先生談話

今回の快拳は生徒諸君の毎日の精進のたまものです。

我々には想像もつかない程の厳しい練習に耐え抜いた証であり、何よりも自分との戦いを克服しての栄冠だと思っています。おそらく、インターハイ出場が決まってからは、さらに高度で厳しい練習をこなしてきたのではないかと推察します。生徒諸君のその精神力には心から敬意を表したいと思います。本当に「日本一」おめでとう！

体育祭

Break the Limit ~心を燃やして~



9月8日(日)に、体育祭が行われました。松山グラウンドでの開催予定でしたが、台風の影響で、日程を変更した上での学校開催となりました。それにも関わらず、多くの保護者の皆様がご来場くださいました。誠にありがとうございました。

さて、今年度の体育祭は競技をいくつか削らざるを得ませんでした。各色の特色溢れるブロック別演技や3年生の迫力あるエッサッサなど、実施した種目はどれも、令和最初の体育祭にふさわしい熱く盛り上がるものでした。今年度、各ブロックのし烈な争いを制したのは赤ブロック。昨年度に引き続き連覇となりました。

この体育祭で、生徒たちは更に絆を深めることができましたようです。これから、それぞれ進路実現に向けての活動や、新たな学校行事が控えていますが、この日に抱いた熱い気持ちを忘れずに、皆で手を取り合ってそれらのことに取り組めていければと思います。

優勝 赤ブロック

K-1グランプリ

【スピード部門優勝】

男子：小倉 朋也(機3B)

女子：松本 実紗(普2D)

【パワー部門優勝】

男子：近藤 怜王(機1B)

女子：浦 琴美(普2D)



【部活動成績】

卓球部

令和元年度長崎地区高等学校新人卓球大会

男子シングルス

西嶋 茂哲(普2A) 第1位

山根 敏和(普2A) 第2位

谷藤 仁奎(普2A) 第3位

山口 真澄(普2D) 第3位

男子ダブルス

谷藤 仁奎・西嶋 茂哲 第1位

岩波 侑樹(普1A)・山根 敏和 第3位

女子シングルス

田中 彩香(普2D) 第2位

女子ダブルス

杉野 麗(普2D)・田中 彩香 第3位

2019年度長崎県卓球選手権大会

高校男子シングルス

西嶋 茂哲 第1位

谷藤 仁奎 第2位

山根 敏和 第3位

高校男子ダブルス

西嶋 茂哲・谷藤 仁奎 第1位

陸上競技部

令和元年度長崎県新人体育大会

男子1500m 高山 将輝(機2A) 第1位

バドミントン部男子

令和元年度国民体育大会第39回九州ブロック大会

少年男子 第3位

水泳部

第74回国民体育大会

長崎県選手 田中 修人(情3A)

令和元年度工業クラブ5S標語選考会

川越 冬喜(機1A) 優秀賞

「その君 5S無視して 大丈夫？」

海外研修報告

今夏、本校から3名の生徒が、海外研修に参加しました。そこでの様子等を立川寛樹君(機3B)と藤岡共陽君(龍機2A)〔以上ドイツ・オランダ〕、大浦美蘭さん(龍普2A)〔シンガポール・マレーシア〕に話してもらいました。

Q1: 行く前の印象と行ったあとの感想を教えてください。

立川: 日本との気候の違いを実感できました。夏でも現地は涼しく、乾燥していました。また、夜9時でもまだまだ明るく、時間感覚をつかむのに苦労しました。

藤岡: 行く前は自分の英語力・コミュニケーション能力にあまり自信がなかったのですが、自分が一生懸命に伝えようすると相手も理解してくれようとしてくれるのがうれしかったです。

大浦: 行く前は「治安が悪い」「衛生環境がよくない」などと聞いていて、初めての海外にとっても不安を感じていましたが、実際に行ってみると、現地の方々とはとてもフレンドリーで楽しみながら1カ月間生活できました。

Q2: 留学先での1番の思い出は?

立川: 現地の学生との交流です。自主性が尊重される環境で、まるで日本の大学のようなものでした。率先した行動力が鍛えられる環境だと思いました。

藤岡: ケルン大聖堂を見に行き、中のステンドグラスや建物のづくりに感動しました。

大浦: マレーシアの食べ物、民族衣装、お店などを体験できたことです。中でもドリアンを食べた時の衝撃は、忘れられないほど刺激的でした。また、小さな島へ行き、きれいな海を見たり、生まれたてのウミガメを見たことも心に残っています。

Q3: 逆に今回の研修中に苦労したことは?

立川: レジ袋が存在しないので、買い物で大量にした時に後悔しました。

藤岡: 自分の伝えたいことが伝わらないことに苦労しました。

大浦: 自分の英語が十分でなかったため、言いたいことがなかなか上手く伝えられなかったり、相手の言葉が聞き取れず、円滑にコミュニケーションが取れなかったことが多かったです。

Q4: 今回の研修を通して、これから何を頑張っていこうと思いましたか?

立川: 今回、日本と海外の教育の違いを知れました。そのまま模倣できるならばそうしたいところですが、それには様々な障壁があることと思います。日本を、世界を変えるために、今自分にできることを一生懸命に取り組んでいきたいです。

藤岡: 英語でのコミュニケーション能力向上のため、英会話に力を入れていきたいと思いました。

大浦: 自分の英語力を伸ばすために、リスニング・スピーキング・ライティング全てにおいて日々の勉強を頑張っていきたいです。日本にも多くの外国人が訪れ、グローバル化が進んでいます。今後の社会に英語は必ずが必要になってくるからです。

おめでとう！囲碁同好会

今月15日(日)に佐世保工業高等専門学校で行われた長崎県高等学校総合文化祭囲碁選手権大会において、本校Bチームが優勝、Aチームが準優勝という結果を残した。今回のチームは8月に発足したばかりのチームで、練習不足が心配されていたが、持てる力を十分に発揮し、見事九州大会への出場権を獲得した。

Bチームキャプテンの藤岡 共陽くん(機2A)は「(今回の優勝は)今までの高校生活で一番嬉しい瞬間でした」、梅山 怜大くん(機2A)は「練習の成果が出た。九州大会までにもっと練習してさらに強くなりたい」と語ってくれた。伸びしろたっぷりの囲碁同好会、次の舞台は12月の全九州高等学校囲碁選手権宮崎大会だ。

